



第9期：平成 29年度事業報告

平成 29年 4 月 1 日～平成30年3月 31 日

平成29年度 スローガン

「原点に帰って再スタート。今日からが開設日！！」



目 次

I. 経緯	2
1. 事業活動報告・資金収支計算書・事業活動計算書・貸借対照表 事業種別利用状況	
II. 実施事業	7
(1) 障がい者福祉サービス介護保険に係る事業	
1. 障害スポーツに関する研究・普及ならびに支援事業	7
1-1. 障がい者スポーツ団体組織化および運営支援事業	
1-2. 障がい者スポーツ研修会・大会への参加	
2. 障がい者（児）および高齢者のデイサービス事業	8
2-1. 日中活動系サービス事業（アス・ライフ）	8
2-2. 就労移行・就労継続事業（アス・ワーク）	11
2-3. 放課後等デイサービス事業（なかぞのフォア・アス）	13
2-4. 日中一時支援事業（児童・なかぞのフォア・アス）	14
2-5. 放課後等デイサービス事業（おおいちフォア・アス）	16
2-6. 日中一時支援事業（児童・おおいちフォア・アス）	19
2-7. 放課後等デイサービス事業（みらいフォア・アス）	21
2-8. 日中一時支援事業（児童・みらいフォア・アス）	23
2-9. 介護保険通所介護・介護予防通所介護事業（大市デイサービスセンター）	25
2-10. 居宅介護支援事業（大市居宅介護支援センター）	26
3. 障がい者スポーツ用品製作及び販売	27
3-1. 障がい者スポーツ用品の試作・製作	
4. 障がい者（児）および高齢者の居宅訪問介護サービス事業	27
4-1. 居宅介護事業（アス・ヘルパーステーション）	27
4-2. 訪問介護事業（アス・ヘルパーステーション）	28
5. 障がい者ならびに障がい者についての啓発に関する事業	29
5-1. 講師派遣事業	
6. 障害者総合福祉法に基づく移動支援事業	29
6-1. 移動支援事業及び同行援護事業（アス・ヘルパーステーション）	
III その他の社会貢献	30
(1) 介護等体験実習生の受け入れ	
(2) ボランティアの受け入れ	
VI 法人の運営に関する事項	31
(1) 平成29年度理事会・評議員会の開催	

I 経緯

平成 16 年 2 月 17 日に特定非営利活動法人の認証を受け名称をアス・ライフサポートとしてスタートした。平成 16 年 7 月に支援費制度（当時）および平成 16 年 8 月に介護保険事業を開始、制度の変遷の波にもまれながら、独自の障がい者支援の道を歩んできた。

平成 20 年 2 月 4 日に第 1 回社会福祉法人アス・ライフ設立準備委員会を開催し、4 回に亘る準備委員会を重ねて平成 21 年 7 月 8 日に山口県から社会福祉法人の認可を頂いた。

翌年に山口県及び山口市の施設整備補助金を受け、念願であった施設建設工事（駅通り）を行い平成 22 年 2 月 26 日に竣工した。

施設の完成により、全ての事業を平成 22 年 4 月 1 日付けにて NPO 法人から社会福祉法人アス・ライフに継承し、新設施設（駅通り）に障がい者自立支援法（当時）による障がい者福祉サービス事業の生活介護・機能訓練・生活訓練事業所を多機能型アス・ライフとして移転した。

平成 23 年度には放課後等デイサービスなかぞのフォア・アスを山口県の基盤整備補助金を受けて全面改装し、バリアフリー化した。

平成 24 年度には多機能型アス・ライフ（駅通り）に、就労移行支援事業所を追加し、4 月より 6 人定員でスタートし 2 年目に定員を 12 名に増員した。

介護保険部門では、平成 24 年 12 月に介護保険通所介護事業所大市デイサービスセンターを新築移転した。それに伴い居宅介護支援事業も新規開設した。高齢者の介護保険部門においては基盤を固め、地域の民生委員等からの相談や利用者の増加など地域に浸透して成果として現れた。平成 25 年度は、地域社会のご支援のもと創立 10 年を迎えることが出来、意義深い年度となった。

平成 27 年 4 月 1 日には施設整備補助金を受けて就労移行支援事業・就労継続支援 B 型事業アス・ワークを開設し、その後にヘルパーステーションを山中ビル 2 階に移転させ大市デイサービスの手狭さを解消させた。平成 28 度は、要望が多かったおおいちフォア・アスを開設した。保護者からの信頼もあり初年度より黒字計上をすることが出来た。

障害者や高齢者が生き生きと希望を持って生活していくことを支えるアス・ライフの理念を将来にわたり実現するためには利用者から選ばれる活動を行い、社会的責任である継続的サービスを実施していく為に黒字経営の改善に取り組んでいく所存である。



写真上：理事・評議員会 下：初詣

【事業活動報告】

平成29年度は生活介護部門の経営立て直しと新しい風を吹き込み、マンネリ化を防ぐための人事異動を行った。それと同時に就労支援部門のアス・ワークをアス・ライフから独立させた。これにより生活介護と就労部門それぞれの部門で支援の専門性を打ち出すことが出来た。しかし、開設当時から14年かけて増やしてきた生活介護部門の利用者が僅か半月の期間で15名激減した。収入金額として約月130万円となり年間約1,500万円の減になった。風評被害の恐さを実感した。同時に、利用者や家族に不安をかける結果となってしまった。

生活介護はもともと100万円の赤字経営であるので、合計で230万円のマイナスとなり大きな打撃を受けながらのスタートとなった。今年度は、「原点に帰って再スタート。今日から開設日！！」のスローガンを掲げ、全職員で支援を継続し信頼回復に努めると共に、経営改善を図るために待機児童が24～25名いる放課後等デイサービスを急遽1店舗開設する計画に取り組んだ。山口県と山口市・防府市の承認を得て、駅前にあるアス・ライフで放課後等デイサービスみらいフォア・アスを7月1日に開設した。みらいフォア・アスは中高生を対象とし、従来のなかぞのフォア・アスとおおいちフォア・アスは小中学生を対象としたデイサービスに色分けした。放課後等デイサービスの3事業所の連携により月約130万円は収入を取り戻す成果を上げ、赤字額を減少させることが出来た。急遽始めた放課後等デイサービスみらいフォア・アスを今後も継続していくための物件探しを秋口より始めた。最終的に燈台下暗しで当初は気が付かなかった開設当時から使用している社会資源が多い好立地条件の山中ビル2階に移転することとした。萩山口信用金庫の全面的協力を得て1,000万円をかけて全面改装と備品調達をおこない、今年度末の平成30年3月12日に移転をすることが出来た。

駅前のアス・ライフでは今年1年間積極的に総合支援学校の実習生を受け入れてきた成果が現れ、高校を卒業した6名が新たな利用者（月延べ50名）として生活介護に迎い入れることができた。また、年度末の3月には放課後等デイにおいて待機児童約17名と仮契約を行い、月延べ利用者数170名を確保する成果を出すことができた。この1年間、職員全員で取り組んだ結果、山口・防府市内の総合支援学校からの評価も上げることが出来た。

今年度は残念ながら1,200万円の赤字を計上した。しかし、平成30年度に向けて黒字経営の基盤をつくることが出来た。

【資金収支計算書】

当法人の平成29年度における資金収支は、事業活動によって、収入187,621千円、支出196,800千円を計上し、その結果事業活動資金収支差額-9,179千円の計上になった。

施設整備等による収支は、施設整備借入金の借入や返済等、施設整備等による収支差額2,623千円となった。長期運営資金借入金の増額等、その他の活動による収支差額6,589千円と合わせて、当期資金収支差額は、33千円、当期末支払資金残高は25,851千円となった。

(資金収支計算書:法人全体資料 P1を参照)

【事業活動計算書】

当法人の平成29年度におけるサービス活動による収益は、生活介護等で減少したものの、

放課後等デイサービスの報酬増加により対前年 6,949 千円増加の 187,255 千円となった。費用については、みらいフォア・アスを開設したこと等もあり、主に人件費と什器備品の調達により経費が増加し、対前年度 12,125 千円増加の 199,874 千円となった。

この結果、サービス活動外増減差額を加えた当期増減差額は対前年度 -5,176 千円減少し -12,618 千円となった。(事業活動計算書:法人全体 P 2を参照)

【貸借対照表】

貸借対照表の資産の部の流動資産は、主に 29 年度に運転資金借入等により現金預金が対前年度 2,962 千円と事業未収入金 2,593 千円増加したこと等により、対前年度 5,599 千円増加し 44,127 千円となった。固定資産は、基本財産が、建物の減価償却により対前年 9,576 千円減少し、284,273 千円となり、その他の固定資産が対前年度 1,198 千円と増加し 29,005 千円となった。固定資産全体として対前年度 8,373 千円減少し、313,279 千円となった。これにより資産の部の合計は対前年度 2,779 千円減少し、357,406 千円となった。

負債の部の流動負債は、借入金により対前年度 7,785 千円増加し、37,006 千円となった。固定負債は設備資金借入により対前年度 13,321 千円増加し 176,638 千円となった。これにより負債の部の合計は対前年度 21,107 千円増加し 213,644 千円となった。

純資産の部については、国庫補助金等特別積立金の取崩による減少等により対前年度 -23,886 千円減少し、純資産は 143,761 千円となった。(貸借対照表:法人全体 P 3を参照)

【事業種別利用状況】

述べ利用者数 (平成 29 年 4 月～30 年 3 月、単位:名)

○アス・ライフ (生活介護・生活訓練)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生活介護	233	242	234	216	214	221	235	242	244	232	218	266	2,797
機能訓練	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生活訓練	0	0	0	11	8	11	18	24	23	8	0	11	114
合計	233	242	234	227	222	232	253	266	267	240	218	277	2,911

(日中一時支援事業)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
69	71	64	50	65	61	60	64	53	39	46	61	709

○放課後等デイサービス事業 なかぞのフォア・アス

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
233	232	262	211	175	184	177	174	173	149	163	169	2,302

日中一時支援事業（児童）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		1月	2月	3月	合計
38	11	9	37	51	22	16	18	28		21	10	44	305

○放課後等デイサービス おおいちフォア・アス【1F】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
292	288	303	279	275	269	257	265	251	217	234	266	3196

日中一時支援事業(児童)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
40	37	14	85	81	29	30	13	55	17	12	61	474

○放課後等デイサービス みらいフォア・アス

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
67	100	124	113	115	113	106	105	137*	980

日中一時支援事業(児童)

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8	18	3	3	2	8	13	3	28*	86

※開所初年度のため、前年度実績はありません。

*3月12日から開所のおおいちフォア・アス2Fの25名が含まれています。

○大市デイサービス（介護保険通所介護・介護予防通所介護事業）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険	159	191	183	169	146	138	157	139	123	116	129	154	1,804)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護予防	11	12	11	15	21	21	20	20	27	31	40	43	272
合計	170	203	194	184	167	159	177	159	150	147	169	197	2,076

○大市居宅介護支援センター（居宅介護支援事業）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険	18	19	18	18	18	18	18	17	17	18	20	19	218

○アス・ヘルパーステーション（居宅介護事業（障がい者自立支援））

・訪問介護

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
104	119	105	120	118	104	43	98	116	114	105	118	1,264

・重度訪問介護

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
9	8	10	11	8	7	8	12	10	9	12	11	115

・訪問介護事業（介護保険）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険	215	245	240	249	232	211	225	224	224	218	209	218	2,710
介護予防	182	177	180	161	186	175	170	148	145	143	136	150	1,953
合計	397	422	420	410	418	386	395	372	369	361	345	368	4,663

・移動支援事業（地域生活支援事業）及び同行援護事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
全身性	138	156	139	149	153	138	72	141	150	148	134	151	1,669
視覚	75	88	73	84	86	82	82	78	86	79	73	82	968
知的	21	24	22	19	21	18	21	19	23	19	18	24	249
合計	234	268	234	252	260	238	175	238	259	246	225	257	2,886

II 実施事業報告

(1) 障がい者福祉サービス・介護保険に係る事業

1. 障がい者スポーツに関する研究・普及ならびに支援事業

1-1

事業名 障がい者スポーツ団体組織化および運営支援事業

概要 山口県ボッチャ協会の事務局を山口市駅通り
1-3-10 アス・ライフ内に設置しており、
利用者さんの組織運営の協力及び場の提供をし、
毎週金曜日及び毎月第3火曜日の夜に強化練習
を実施するなど、期を通して支援を行った。



1-2

事業名 障がい者スポーツ研修会・大会への参加

概要 以下のスポーツ大会等への障がい者の参加を支援した。

- ・平成 29 年度タンデム教室
平成 29 年 5 月 13 日 維新百年記念公園
- ・第 17 回キラリンピック
平成 29 年 5 月 14 日 維新百年記念公園
- ・初級障害者スポーツ指導者研修会
平成 29 年 6 月 24 日 下関看護リハビリ専門学校
- ・第 19 回日本ボッチャ選手権大会クラス分け
平成 29 年 6 月 11 日 サンフレッシュ山口（ネット中継診断）
- ・第 19 回日本ボッチャ選手権大会西日本ブロック予選会
平成 29 年 7 月 7 日～ 9 日 宮崎市総合体育館
- ・障がい者スポーツフェステバル
平成 29 年 8 月 3 日 Y I C 宇部
- ・福祉人権教室
平成 29 年 8 月 11 日 防府総合支援学校
- ・ふれあいレク大会
平成 29 年 10 月 8 日 阿東老人福祉センター
- ・あいサポートフェステバル
平成 29 年 10 月 14 日 山陽オートレース場
- ・第 17 回キラリンピック大会球技の部
平成 29 年 10 月 15 日 山口市リフレッシュパーク

- ・第19回日本ボッチャ選手権大会本大会
平成29年11月10日～12日 府民共済 SUPER アリーナ
- ・山口県ボッチャ審判員講習
平成30年1月21日 山口市リフレッシュパーク
- ・第16回山口県障がい者交流ボッチャ大会
平成30年2月17日 維新百年記念公園アリーナ
- ・第16回山口県障がい者交流ボッチャ大会
平成30年2月18日 宇部常盤公園
- ・パラスポーツイベント
平成30年3月23日 パルトピアやまぐち
- ・その他各大会各競技、定期練習、合同練習、強化練習の支援に期を通して行った。

2. 障がい者（児）および高齢者のデイサービス事業

2-1

事業名 日中活動系サービス事業（アス・ライフ）

概要 障がい者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障がい者総合福祉法）において、日中活動系サービスとして位置づけられるサービスを以下のとおり行った。

生活介護：定員25名、生活訓練：定員6名、機能訓練：定員6名（平成26年1月より休止している。）

生活介護事業は、年度当初に複数の退職者があり、長年利用していた利用者さんたちが、一部の人のデマ情報（例えば入浴サービスや、ボッチャ競技の練習等ができなくなるなど誤情報が出回り、多数の利用者が他事業所に利用変更する事態が生じた。1ヵ月110人～130人の減少が見られ、営業実績の面からは、大きな痛手となった。



年度当初から中長期的事業戦略として、障害種

別に偏らない（肢体不自由者、知的障がい者、中途障がい者など）、発達障がい者（知的障がい者を伴う自閉症など）の受入を可能とする施設環境の改善及び自閉症児への専門的支援が行える職員の育成と確保を進めてきた。また、重度肢体不自由者（医療的ケアを必要とする利用者さんのデイサービスの充実）さんが安心、安全に利用できる専門の看護師等を配置した。



このように施設環境や専門的職員（正規職員・パート）の確保と実践によるキャリアアップを図りながら、近隣の支援学校（山口総合支援学校、山口南総合支援学校、防府総合支援学校、宇部総合支援学校、益田養護学校）の高等部3年生の現場実習も積極的に受け入れた。今までは、現場実習の受け入れは消極的で、重度重複障がい、自閉症児の受け入れは、ほとんどなく、支援学校からの問い合わせも限られていた。29年度はこのような状況を払しょくするのに大きなエネルギーを必要とした。（各支援学校等の進路懇談会に出向き積極的に現場実習を受け入れる体制ができつつあることを紹介した。）

○現場実習の受け入れ校

- ①山口総合支援学校 ②防府総合支援学校 ③山口南総合支援学校
- ④宇部総合支援学校 ⑤益田養護学校

○平成30年4月からのアス・ライフの生活介護新規利用者 6名

- ・肢体不自由（車椅子） 3人
- ・自閉症・知的障がい者 3人

※4月の新規利用者の述べ人数 50人の増加



○主な行事

- ・5月 つつじ祭り（防府市）、二胡演奏会
- ・6月 シンガーソングライター（ライブ）
- ・7月 夏祭り（かき氷など）・10月 リンゴ狩り（徳佐）
- ・11月 山口美術館 ・12月 クリスマス会
- ・1月 初詣 ・2月 節分 ・3月 花見



○利用者数 登録利用者数（平成30年3月現在）

- ・生活介護 57人
- ・生活訓練 1人
- ・機能訓練 0人

述べ利用者数（平成29年4月～30年3月、事業日数：（309）日、単位：名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生活介護	233	242	234	216	214	221	235	242	244	232	218	266	2,797
（下段前年度）	378	362	361	360	372	342	353	362	362	326	332	370	(4,280)
機能訓練	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 (0)
生活訓練	0	0	0	11	8	11	18	24	23	8	0	11	114 (5)
合計	233	242	234	227	222	232	253	266	267	240	218	277	2,911 (4,285)

※（ ）は前年（平成28年4月～29年3月）実績

日中一時支援事業

利用者数 登録利用者数（平成30年3月現在）

・日中一時： 4名

のべ利用回数（平成29年4月～30年3月）

（単位：名）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
69	71	64	50	65	61	60	64	53	39	46	61	709
82	69	73	65	65	66	66	71	59	58	54	70	(798)

※下段は前年（平成28年4月～29年3月）実績

○現状と今後の課題

- ・日々のデイ活動は利用者さんの主体性を尊重しながら、利用日の午前・午後に分けて優先順位を確認し、一日の活動にメリハリがつくように配慮してきた。（例えばスポーツ、レクレーション系～ボッチャ、卓球、フライングディスク、ウォーキング、散歩、ストレッチ体操（機能訓練も含む。））
- ・文化系～創作活動（色紙細工、絵画など）、オセロ、将棋、麻雀、カラオケ、映画、音楽鑑賞、パソコンなど。
- ・身体介護では入浴（普通浴・特浴）希望者のみ。医療ケア…看護師が必ず常駐している。
- ・就労系の作業活動も利用者さんの体力や作業能力に応じて、意欲がある利用者さんには負担や負荷が過度にかからない軽作業を取り入れている。（広告やチラシの折り込み作業、通販業者からの受注作業、リサイクル作業（アルミ缶のプレス、ペットボトルのシール剥がしとプレス作業など。）作業に関わった利用者さんには、工賃を支払っている。

○今後の課題

- ・緊急の課題は利用定員を満たせるように引き続き、当事業所の生活介護の取り組み状況を支援学校等の生徒、教員、保護者の方々へ現場実習や見学会、進路懇談会等で事業の説明や理解を図る必要がある。
- ・放課後等デイを利用している児童が、将来の進路選択の手物になるよう、系列事業所との連携有効な支援の方法や手立てを共有し、支援学校や相談事業所と連携を図る必要がある。
- ・ボッチャ競技者の発掘と支援を充実させ、アス・ライフ＝ボッチャ競技のセンター的役割を担う。
- ・重度障害の利用者さんが安心・安全に、楽しく過ごせる生活介護を目指す（職員が同じ方向に向かって、日々、精進しながら前に進むことであろう。）

2-2 就労移行・就労継続支援 B 型事業（アス・ワーク）

○ 設立の経緯

平成 24 年 4 月 生活介護、自立訓練との多機能事業所として就労移行支援事業を定員 6 名で開始

平成 25 年 4 月 就労移行支援事業の定員を 12 名に変更

平成 27 年 4 月 就労継続支援 B 型事業を定員 15 名で開始、宮島町に就労支援作業場を設置

平成 29 年 6 月 就労移行支援及び就労継続支援 B 型の多機能事業所として発足
就労移行支援定員 6 名、就労継続支援 B 型 25 名に変更

○ 作業活動の概要

多様な利用者の特性、適性に於けるため、屋外における除草、草刈、剪定等粗大な動きを必要とする活動と、室内における部品組立、電線加工、通販製品計量・袋詰。シール貼等微細な動きを必要とする活動の両面を提供できるよう、各種事業所、地域からの受注を受けるよう努力している。請負作業の主な発注元は下表のとおりである。

○ 請負作業の概要

	事業所名等	作業種	作業内容
定期契約	カルチャー色	造園	除草 剪定 草刈 その他庭園整備
	毎日メディアサービス	情報紙ポスティング	広告紙折込
	地域情報新聞		情報紙戸別配付
	一の坂メディアサービス	清掃 洗浄 洗車	入居棟、浴室、WC、テイルム等清掃 食器洗浄 送迎用車両洗車
	杉山製機	ボイラー部品組立	IC 基盤ケースシール貼、コイルビス留め
	K's プラネニング	通販製品発送準備	袋詰、シール貼、計量、不良品チェック等
	大熊工業	車両用電線加工	リード線テープ巻、ツイスト機操作
契 随 約 時	屋外請負作業	アパート住宅棟環境整備	除草 草刈 剪定 清掃等
	室内請負作業	資料作成 名刺印刷	PC 入力 レアウト 印刷等

これらの請負作業の他、自主製作としてビーズアクセサリ、レジンアクセサリ、アイロンビーズ作品等、手工芸的な活動も行っている。製作した作品はバザー等での販売活動に活用している。また、年間数回、花見、昼食会、新年会等レクリエーション活動も行っている。



剪定



除草



庭園整備



部品組立



動作チェック



ホーステイング



販売活動



救急救命法講習



レクリエーション

○ 利用者数の推移

6月の発足以来の利用者数は下表のとおりである。

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
就労移行	10	10	10	10	11	10	10	10	10	11	12
就労継続支援 B	2	2	2	2	3	3	3	3	3	2	3

○ 工賃実績

6月より3月の工賃実績は下表のとおりである。

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
移行総額	68,505	73,813	69,556	63,508	86,668	90,921	102,441	95,773	75,764	48,701
移行平均	34,253	36,907	34,778	31,754	43,334	30,307	34,147	31,924	25,255	24,351
B型総額	332,869	315,535	283,060	301,135	272,967	330,612	298,276	297,117	223,969	307,014
B型平均	30,261	31,554	31,451	33,459	30,330	36,275	29,828	29,712	22,397	27,910

○ 今後の課題

* 就労移行

- ・ 就労移行支援の該当者が減少傾向にあり、定員充足に至らない。
- ・ 精神的な不安定さや、コミュニケーション面の困難さ等で1年間就職者を出せなかった。
今後、職安、就業・生活支援センターとの連携をより強化する必要がある。

* 就労継続 B

- ・ 利用者数の増加のため、より多様な特性のある利用者を受け入れるための方策が必要である。
- ・ 工賃向上のため、施設外での請負作業を増やしたいが、職員数の不足のため困難さがある。
- ・ 欠勤が顕著に多い利用者への適切な対応について共通理解や家庭、相談機関との連携が必要である。

事業名 放課後等デイサービス事業 (なかぞのフォア・アス)

概要 障害のある子どもたちが、日常生活を通して基本的な生活習慣や人・物とのかかわり方を習熟することで、社会適応をよりスムーズにできるように支援していくことを目指した事業を進めてきた。また、障害の特性を十分に理解した上で、様々な活動を設定し、利用児童に経験を積めるようにしている。そのためには、子ども一人ひとりに「できる状況づくり」などの環境を整えていくことが重要であると考える支援してきた。子どもたちが、デイサービスを利用することで、保護者、家族の療育負担を軽減し、子育て支援の一翼を担ってきた。



利用者数 登録利用者数 (平成30年3月現在)

45名 (男子35名、女子10名)

のべ利用者数 (平成29年4月～30年3月、事業日数: (309日) (単位: 名)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
233	232	262	211	175	184	177	174	173	149	163	169	2,302 (2,887)

※ () は前年 (平成28年4月～29年3月) 実績

支援概要

新規利用者は2人からのスタートになった。既になかぞのフォア・アスを利用されていた児童に関しては、希望がある方は月2回程度利用回数を増やし対応した。

平成29年7月1日より、みらいフォア・アス (中高生対象) が開所したことにより、中高生の方が多く移行された。それに伴い、7月以降に3名の方が新規に利用開始になった。全体的には前年度に比べて利用人数の減少に繋がった。

みらいフォア・アスが開所したこともあり、支援マニュアルを作成し、各フォア・アスでの支援の隔たりがないように心がけた。

子ども1人ひとりに合わせたスケジュールを活用し、能力に合わせた課題の提示、創作活動や遊びを提案し実施をした。

学習の場面では、支援学校で取り組まれているワークシステムを利用することで、より利用児童に学習に取り組む意識を持ってもらえるように努めた。



送迎時での引継ぎ、連絡帳の活用、個別支援計画の見直し時のモニタリング・面接等で支援方法の確認を行った。担当者会議へ積極的に参加し、他の事業所での過ごし方などの情報を得ることで、当事業所での活動内容の充実を図った。

山口県立総合支援学校・山口大学附属特別支援学校への見学を実施しフォア・アスを利用して児童の様子、具体的な支援内容などを学ぶ機会となった。

月例の職員会議では、『気になる子ども』を中心にケース会議を行い、支援の充実へ繋がるように努めた。虐待防止への意識を高めるため、資料の配布などを行った。また、昼礼（朝礼）を実施し、その日の支援の中での重要な点を確認し日々の支援を行った。

長期休暇中（春休み、夏休み、冬休み）及び、土曜日・祝日も多くの子ども達が利用された。

- (1) 外食関連・・・ジョイフル、マクドナルド、シャトレーゼ、ミスタードーナツ、りゅう庵など
- (2) 公園関係・・・萩ウエルネスパーク、新亀山公園、維新公園、大平山公園、仁保道の駅、美東町道の駅など
- (3) お買い物・・・くすりのレディ、コスモス、ドラックモリ、ダイキ、アルクなど
- (4) 室内活動・・・防府市青少年科学館（ソラール）、山口県立博物館、市立図書館、県立図書館、パラボラ館など

問題点及び課題

保護者からの希望・要望が年々、より細かく詳細になってきている。それに答えていくため、支援の質を上げていく必要がある。そのためには、より職員間の連携・連絡を密にしていかなければならない。また、有効な支援方法を開発し、情報の入手や専門機関の研修参加で、支援者の技術（スキル）を高めていくことが重要になる。

2-4

事業名 日中一時支援事業（児童） （なかぞのフォア・アス）

概要 希望者が増加の傾向にある。時間もやや延長傾向にある。子どもたちが日中一時を利用することで、保護者が仕事をしやすくなるように配慮している。

利用者数 登録利用者数（平成30年3月現在）
45名（男子35名、女子10名）

のべ利用回数（平成29年4月～30年3月）（単位：名）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
38	11	9	37	51	22	16	18	28	21	10	44	305 (309)

※（ ）は前年（平成28年4月～29年3月）実績



研修会・見学等

1) 研 修

- | | | |
|-------------------------|------|-----|
| ① 福祉施設等セルフマネジメント職員研修会 | H29年 | 6月 |
| ② 福祉施設中堅職員研修会 | H29年 | 6月 |
| ③ 支援のためのファーストステップセミナー | H29年 | 6月 |
| ④ 自閉症eサービス基礎講座 | H29年 | 7月 |
| ⑤ 福祉施設中堅職員研修会 | H29年 | 9月 |
| ⑥ 児童福祉テーマ別研修 | H29年 | 10月 |
| ⑦ 山口・吉南地区地域ケア連絡協議会 | H30年 | 1月 |
| ⑧ 山口・防府ケアマネジメント研修 | H30年 | 1月 |
| ⑨ 山口市自立支援協議会 | | |
| こども部会 | | 不定期 |
| こども部会定例会 | H30年 | 1月 |
| ⑩ 「山口市子ども・子育て条例」制定フォーラム | H30年 | 2月 |
| ⑪ 山口県発達支援センターまっぷ 公開講座 | H30年 | 3月 |

2) 見 学

山口総合支援学校
山口大学附属特別支援学校

3) 行 事

第10回 おもちつき会

H29年12月

2-5

事業名 放課後等デイサービス (おおいちフォア・アス【1F】)

【概要】 障害のある子どもたちが、日常生活を通して基本的な生活習慣や身辺自立について、また他者や物とのかかわり方を習熟することで、社会適応をよりスムーズにできるように支援をしていくことを目指して事業を進めてきた。また、障害の特性を理解するとともに、一人ひとり子どもたちの個性も把握し、より適切な支援をすることで、子どもたちが主体的、自立的な活動へとつなぎ、促していくことができる。そのためには、子ども一人ひとりに「できる状況づくり」「挑戦できる環境づくり」などの周辺環境を整えていくことが重要であると考えて、継続して支援を行ってきた。

子どもたちが、放課後等デイサービスを利用することで、保護者や家族の療育負担を軽減し、子育てへの不安解消や子育て支援のフォロー役を担ってきた。

【放課後デイ利用者数】 登録利用者数 (平成30年3月 現在)

38名(男子24名 女子14名)

のべ利用者数(平成29年4月～平成30年3月、事業日数：309日)

(単位：名)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
292	288	303	279	275	269	257	265	251	217	234	266	3196
(156)	(177)	(210)	(206)	(217)	(208)	(213)	(220)	(227)	(222)	(234)	(290)	(2580)

※()は前年度実績になります。

ます。

【支援概要】

H28年4月1日より、フォア・アスの待機児童解消と新たに放課後デイの利用を必要とする人々のニーズに応えることを目的として、2ヶ所目のフォア・アス『おおいちフォア・アス』が開所することとなった。

2年目を迎え、利用児も活動の雰囲気や過ごし方にも慣れ、通っている学校の枠を超えて、お互い交流を深めながら、楽しくコミュニケーションや学習をする様子も増えてきている。

また、学年も上がり、精神面でも成長が見られ、約束事等がルール・マナーとして理解できるようになってきている。その反面、自我の部分も合わせて芽生え成長しており、ち

よつとした事柄で児童同士の衝突(トラブル)も増えてきているため、場面や状況の中で支援者が間に入り、適切なコミュニケーション方法を教えながら、他者との楽しい関係性の作り方も含めて支援している。

保護者とのコミュニケーション(児童の様子)を常に図り、支援の方針について確認や支援内容を臨機応変に変更や工夫を行い、家庭の療育状況なども把握しながら、共通理解を行っていった。最近では、お迎えの際や送迎時に、児童の成長する中で起こる悩みなども相談を受けるケースが増えている。

前期(9月)・後期(3月)を設定して半年ごとの定例のケース会議や保護者との直接面談・書面相談を行いながら、個別にモニタリングを実施した。

また、サービス提供時間終了後、必ずその日の子どもの変化や行動など、特記事項を職員がお互いに細かな子どもたちの変化を捉えておくために終礼の場は継続して行っており、柔軟に一人ひとりがフォローしていけるように普段から重要な情報共有の場として設けている。

長期休業中(夏休み・冬休み・春休み)及び土曜日、祝日も多くの子どもたちが利用した。平日と異なり、活動時間も長く、内容も幅広く準備し、計画を立て、実施をした。



- ① 公共のプールを利用・・・防府市民プール、身体障害者センタープール
- ② 公園関係・・・河原谷公園(宇部市)、常盤公園(宇部市)、藤尾山公園(山口市)、きらら運動公園(山口市)
新亀山公園(山口市)、維新公園(山口市)、中央公園(山口市)、ルネッサ長門(長門市)、秋穂コミュニティーセンター、大殿地区福祉センター、船方牧場 など
- ③ 博物館・科学館など・・・山口市立中央博物館、防府市青少年科学館「ソラール」、山口県立図書館、周南市徳山動物園、交通センター、村田かまぼこ店(工場見学)など
- ④ ショッピング活動・・・くすりのレディー、コスモス、ダイソー、セリア、ザ・ビッグ山口店、アルク山口店、新鮮市場中市店、ミスターマックス山口店、ゆめタウンなど
- ⑤ クッキング活動・・・夏休み日替わりクッキング(カレーライス、豚汁、焼きそば、パスタ、たこ焼き)

シチュー、瓦そば、そうめん流し、綿菓子、かき氷、ケーキ
お菓子作り)

※保護者会も兼ねて「親子 de クッキング」を開催。

⑥外食活動・・・ジョイフル など

【問題点及び今後の課題】

- (1) 月ごとに利用者数が増え、定員を超過する日が続いている。
- (2) 引き続いて、利用の相談件数が増えており、次年度を見越しての見学希望や幼稚園年小・年中児を持つ保護者からの見学依頼・相談が合わせて増加している。そのため、待機児童は現在20名程度(H30.3月末)あり、増加する可能性が見込まれる。
今後、利用児童の利用状況を見ながら曜日調整を行いながら、徐々に待機児童を新規で受け入れができるように調整を行う必要がある。
- (3) 限られたスペース内で、子どもたちがお互いに居心地の良いスペースづくり(構造化)を図り、安定した活動に集中しやすい環境の配慮を行った。
しかし、定員を超過する(12～13人)受け入れの日もあり、スペース的に狭さを感じざるを得ない状況の日もあり、聴覚過敏や感覚過敏の子どもにとっては、居づらさを訴える場面もあったため、今後もスペースの割り振りの解消に向けて、引き続いての課題である。
- (4) 子どもたちそれぞれが、楽しく安心して活動できるように、ルールの明確化や約束事なども言葉だけではなく、絵カードや写真、スケジュールボードによる活動の時間割りの提示や集団活動の始まり終わりを理解してもらうための「会」を設けることで、その意図が定着し、児童も切り替えを意識できるようになってきている。より習慣化でき、子どもたちが意識して自分から行動に移せる状態を作ることは、支援課題の一つである。
- (5) 学年が上がるにつれ、多感な時期に入る利用児童が多くなり、その時々々の生活状況(家庭や学校生活)から子ども自身が影響を受けやすい場合が多く見られ、子どもの様子変化について細かな状態観察(体調・顔色・行動など)が必要であり、基本的な障害特性を支援者が十分に理解したうえで、支援に入る際はこれまで以上に少しの変化を見逃さない対応が求められる。
(成長に合わせての児童の「立場」「気持ち」に寄り添う支援が求められている。)
- (6) 家庭内での虐待というケースも利用開始時の相談の中に、引き続き上がってきている。そうした子どもたちが少しでも精神面が安定する方向にフォローを求められることがあり、また不登校気味の子どもさんが学校へ行けるようになるためのきっかけとしておいちフォア・アスの利用を希望する案件も出てきている。
現状から今後もこのようなケースの相談が増える可能性も考えられるため、障害面

のフォローももちろんであるが、子どもたちの精神面のケアについても、支援者が理解していくことも課題である。

- (7) H29年4月より一部見直し・改正された部分で、「人員配置基準の見直し」があり、配置すべき職員を「指導員または保育士」から「児童指導員、保育士または障害福祉サービス経験者(2年以上従事した者)」に見直され、「半数以上は児童指導員、保育士を配置することとする」という改正があった。

そして、このH30年4月からは、制度改正に伴い、報酬単価の見直しや専門職員を配置することで取得できる加算の変更等含めての影響も把握し、今後も安定した運営を行うために、長期的に勤務してもらえる「障害特性や子どもへの理解のある支援者」の確保が先を見据えての必要な課題になると思われる。

(みらいフォア・アスへの職員移動や学生アルバイト等の卒業による支援者不足など)
(利用児、保護者への細かな配慮や対応が、より求められるようになってきている)

また、働きやすく、コミュニケーションがお互いとりやすい風通しの良い職場作りを一人ひとりが意識しながら、努めることで安定した長期在職者が生まれると思われる。



2-6

事業名 日中一時支援事業(児童) おおいちフォア・アス

【概要】 放課後等デイサービスの利用希望とともに併用利用希望にて日中一時支援希望者が増えている。

学年が上がるにつれ、共働きの家庭が増えている傾向もあり、併用利用をすることで家庭の育児・療育負担の軽減を図りたいという声も挙がってきており、今年度も途中で併用利用ができる事業所に変わりたいという希望から、おおいちフォア・アスを利用したいというケースも数件引き続いて相談があった。

今後もこのようなケースの増加は見込まれる。

現状ではまだないが、日中一時単独利用児童には、職員配置を必ず1名つけなくてはならないという制約もあり、利用者数定員超過時の場合には、支援者不足になる可能性もあるため、調整が必須である。

特に、併用利用が多くなる時期は、前年度と変わらず7・8月と12月・3月の時期に集中しており、理由としては、長期休業時(夏休み・冬休み・春休み)とその前後で、学

校が早く終わること(家庭訪問週間など)や保護者の労働時間帯に合わせて利用の申し出が増えてきているためである。

【利用者数】 登録利用者数(平成 30 年 3 月現在)

38 名(男子 24 名 女子 14 名)

延べ利用回数(平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月)

(単位：名)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
40	37	14	85	81	29	30	13	55	17	12	61	474
(38)	(16)	(10)	(46)	(83)	(22)	(20)	(16)	(50)	(23)	(18)	(57)	(399)

※()は前年度実績になります。

H 2 9 年度 研修会・見学等

- ① 平成 2 9 年度 児童・障害者(児)福祉施設等新任職員研修 5 月 2 4 日～2 5 日
(山口県セミナーパーク)
- ② 平成 2 9 年度 児童・障害者(児)福祉施設等テーマ別研修 7 月 1 0 日
(山口県セミナーパーク)【虐待防止と利用者の権利擁護】
- ③ 平成 2 9 年度 山口県相談支援従事者初任者研修① 8 月 6 日～7 日
(山口県セミナーパーク)
- ④ 児童・障害者(児)福祉施設等新任職員フォローアップ研修 1 1 月 8 日
(山口県セミナーパーク)
- ⑤ 平成 2 9 年度 サービス管理責任者等研修(共通講義) 1 1 月 1 0 日
(山口県セミナーパーク)
- ⑥ 平成 2 9 年度 サービス管理責任者等研修(児童分野：児童発達支援責任者) 1 1 月 2 8 日～2 9 日
(山口県セミナーパーク)
- ⑦ 平成 2 9 年度 山口県障害者虐待防止・権利擁護研修 1 2 月 1 9 日・1 2 月 2 1 日
(山口県セミナーパーク)【管理者コース】
- ⑧ 山口総合支援学校 見学
- ⑨ 山口市こども部会 出席
山口市子ども部会ワーキンググループ(月 1 回定例)
- ⑩ ・第 10 回 おもちつき会

H 3 0 年度 おおいちフォア・アス 研修計画(職場内外)

- ①平成 3 0 年度 児童・障害者(児)福祉施設等新任職員研修
(山口県セミナーパーク)
- ②平成 3 0 年度 児童・障害者(児)福祉施設等指導的職員研修

- (山口県セミナーパーク)
- ③平成30年度 児童・障害者(児)福祉施設等新任職員フォローアップ研修
(山口県セミナーパーク)
- ④平成30年度 山口県障害者虐待防止・権利擁護研修
- ⑤山口市こども部会
- ⑥山口市子ども部会ワーキンググループ
- ⑦職場内研修(支援について)
(虐待防止及び災害対策等について)
(感染症対策について) 等 随時予定

2-7

事業名 放課後等デイサービス (おおいちフォア・アス【2F】)
(通称 みらいフォア・アス)

【概要】

障害のある子どもたちが、日常生活を通して基本的な生活習慣、また人や物とのかかわり方を習熟することで、社会適応をスムーズにできるように支援していくことを目指した事業を進めてきた。また、障害の特性を十分に理解し、より適切な支援をすることで、子どもたちが主体的、自立的に活動が取り組めるように「できる状況づくり」などの環境を整えていくことも重要であると考え、支援してきた。

さらに、中高生対象ということで、卒業後の進路につながるような活動も取り入れ、将来を見据えた支援してきた。

子どもたちがデイサービスを利用することで、保護者、家族の療育負担を軽減し、子育て支援のフォロー役も担っている。

【放課後デイ利用者数】

登録利用者数(平成30年3月1日 現在)

23名(男子 15名 女子 8名)

延べ利用者数(平成29年7月～平成30年3月、事業日数： 209日)

(単位：名)

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
67	100	124	113	115	113	106	105	137*	980

※開所初年度のため、前年度実績はありません。

*3月12日開所のおおいちフォア・アス2Fの103名が含まれていません。

【支援概要】

放課後等デイサービスの利用希望は年々増加傾向にある。山口市内は特に増加傾向が顕著であり、待機児童を多く抱えている状況もあり、平成29年7月に「みらいフォア・アス」を開所した。「なかぞのフォア・アス」「おおいちフォア・アス」と異なる点は、対象が中高生ということである。

開所当初は契約人数も少なかったが、平成29年度末現在、定員に達し、平成30年度以降は待機児童が出てくる状況にある。

今までなかぞのフォア・アスやおおいちフォア・アスを利用していた子どもたちがほとんどだが、新しい環境で安心して過ごせるような環境を作って、開所を迎えた。また、職員体制も全て新しい職員ではなく、子どもたちがよく知っている職員も配置し、出来るだけ混乱のないようにした。

子ども一人ひとりに合わせたスケジュールを活用し、能力に合わせた課題の提示、創作活動や遊びを提案し、実施をした。

中高生対象ということで、将来につながる活動として、地域情報誌の折り込み、商品のシール貼り、ペットボトルや空き缶つぶし等を取り入れ、実施した。

より良い支援につなげるため、保護者とのコミュニケーションを図り、一日の子どもの様子を伝えたり、保護者から子どもの情報や支援についての希望を聞き、支援内容の充実を図った。また、個別支援計画の見直し時に、モニタリングや面談等で支援方法の確認を行った。

山口県立総合支援学校、山口大学附属特別支援学校への見学を実施し、フォア・アスを利用されている児童の様子や具体的な支援内容などを学ぶ機会となった。

長期休暇（夏休み、冬休み、春休み）、土曜日、祝日は平日と異なり、活動時間も長く、内容も幅広く準備し、計画を立て、実施をした。

- (1) 外食関連・・・ジョイフル、マクドナルド
- (2) 戸外活動・・・電車を利用しての外出、商店街散策、瑠璃光寺
身障プール、鳴滝のプール、小郡屋内プール、維新公園
セミナーパーク、常盤公園、足湯、船方農場、スポーツの森など
- (3) 室内活動・・・萩市民体育館、山口県立博物館、アスピラート（防府市）など
- (4) 買い物・・・新鮮市場、コーケンドラッグ、こことどうもん、くすりのレディ、ドラッグストアモリ、コスモス、ミスターマックス、アルクなど
- (5) クッキング活動・・・焼きそば、お好み焼き、豚汁、ピザ、カレーライス、シチューなど



【問題点及び今後の課題】

・来年度、なかぞのフォア・アスとおおいちフォア・アスから中高生が完全移行と決定しているが、すでに定員がいっぱいになっている曜日もあり、現在の利用曜日が利用できない可能性がある。利用曜日の変更など、保護者に理解が得られるような対応が必要になってくる。

・中高生対象の放課後等デイサービスということで、「大人に向かってより自分自身が成長している」「自分たちがこれから社会に出ていく」という実感を、より深めていけるような活動を更に増やしていきたいと考えている。

・思春期を迎え、いろいろな事に興味をもつ多感な時期でもあるがゆえに、個別対応が必要な利用児童も多く、支援する児童指導員の高い専門的な療育技能の向上等が不可欠である。ケースカンファレンスや他機関との情報の共有や支援体制の連携もこの事業を意義あるものにするための重要な課題である。また、個別対応の利用児童が増えるほど、職員を十分に確保する必要がある。今後も安定した運営を行うために、長期的に勤務してもらえ「障害特性や子どもへの理解のある支援者」の確保が先を見据えての必要な課題になると思われる。

2-8

事業名 日中一時支援事業(児童) (おおいちフォア・アス【2F】)
(通称 みらいフォア・アス)

【概要】 放課後等デイサービスの利用希望とともに併用利用希望にて日中一時支援希望者が増えている。

共働きの家庭が多く、併用利用をすることで家庭の育児・療育負担の軽減を図りたいという声も 挙がってきており、今後も利用増加は見込まれる。

現状ではまだないが、日中一時単独利用児童には、職員配置を必ず1名つけなくてはならないという制約もあり、利用者数定員超過時の場合には、支援者不足になる可能性もあるため、調整が必須である。

特に、併用利用が多くなる時期は、7月、8月と12月、3月に集中しており、理由としては、長期休業時(夏休み・冬休み・春休み)とその前後で、学校が早く終わることや保護者の労働時間帯に合わせて利用の申し出が増えているためである。

【利用者数】 登録利用者数(平成 30 年 3 月 1 日現在)

23名(男子15名 女子8名)

延べ利用回数(平成28年4月～平成29年3月)

(単位:名)

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8	18	3	3	2	8	13	3	28*	86

※開所初年度のため、前年度実績はありません。

*3月12日開所のおおいちフォア・アス2Fの25名が含まれています。



H29年度 みらいフォア・アス 研修会・見学等

- ・虐待防止マネージャー養成研修コース H29年12月
- ・山口市こども部会
- ・山口市子ども部会ワーキンググループ 月1回定期
- ・見学 山口総合支援学校
山口大学附属特別支援学校
- ・第10回 おもちつき会 H29年12月

H30年度 みらいフォア・アス 研修計画(職場内外)

- ① 平成30年度 児童・障害者(児)福祉施設等新任職員研修
(山口県セミナーパーク)
- ② 平成30年度 児童・障害者(児)福祉施設等中堅職員研修
(山口県セミナーパーク)
- ③ 平成30年度 児童・障害者(児)福祉施設等指導的職員研修
(山口県セミナーパーク)
- ③ 平成30年度 児童・障害者(児)福祉施設等新任職員フォローアップ研修
(山口県セミナーパーク)
- ④ 平成30年度 山口県障害者虐待防止・権利擁護研修

- ⑤ 山口市こども部会
- ⑥ 山口市子ども部会ワーキンググループ
- ⑦ 職場内研修(支援について)
 (虐待防止及び災害対策等について)
 (感染症対策について) 等 随時予定

2-9

事業名 介護保険通所介護・介護予防通所介護事業 (大市デイサービスセンター)

概要 毎年同じような経緯をたどっていますが、時期によりご利用者の増減がかなりあります。利用計画自体はかなり利用回数がありますが実績になると利用者の死去・体調不良での入院や短期施設入所利用・ご家族の都合などが重なり実績がかなり落ち込んでしまう時期があります。



入院や短期入所については退院・退所の可能性がある限り他の予定を入れることは出来ず、何か月かはロスが出るのは避けられない状況も変わりありません。

現状年度末新年度現在では、ほぼ定員いっぱいの状況で推移しています。介護保険も平成30年度には大きく転換し介護・医療・障害の連携が強く求められています。



これまで以上に対応できるように職員含め多様な研修など参加し対応できるようにしていきたいと考えます。

年間行事

1) レクリエーション



- 1月：初詣（防府天満宮）
- 4月：お花見（徳佐八幡宮） 7月：そうめん流し
- 10月：ぶどう狩り（仁保） 12月：クリスマス会

利用者数 登録利用者数（平成30年3月現在）



- ・介護保険通所介護 : 25名
- ・介護予防通所介護 : 7名
- ・合計 : 32名

のべ利用回数（平成29年4月～30年3月）（単位：名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険	159	191	183	169	146	138	157	139	123	116	129	154	1,804 (1,834)

※（ ）は前年（平成28年4月～29年3月）実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護予防	11	12	11	15	21	21	20	20	27	31	40	43	272 (361)
合計	170	203	194	184	167	159	177	159	150	147	169	197	2,076 (2,195)

※（ ）は前年（平成28年4月～29年3月）実績

2-10

事業名 居宅介護支援事業（大市居宅介護支援センター）

概要 居宅介護支援事業は、これまで以上に行政・医療機関との連携を進めることが出来た一年でした。行政・医師会合同の研修会等主導することにより貴重な経験もすることが出来ました。平成30年度より制度改正に対応する必要があり主任ケアマネ取得のため通所介護の業務から外れ居宅介護支援専任としております。ご利用者はほぼ例年通りの利用者・プラン作成で推移しておりますが、今後担当利用者を少し増やしていく予定です。また、集中減算も考えながらプラン作成になりますのでより多くの介護施設サービスを検討・利用できる様々な施設の見学・状況確認を怠らないよう努力してゆきたいと思っております。

今後、社会保障は介護・医療・障害の壁を小さくして共同で連携を強化しながら支援を行うように進んでいるとの情報が入ってきています。

今後も介護・医療だけでなく障害の方々や情報を取り入れながら多様化する支援状況に対応していきたいと思っております。

尚、平成29年度行われた県健康保険課指導監査室の現地指導も特段の行政指導なく、問題なくクリアしております。

利用者数 登録利用者数（平成30年3月現在）

- ・要介護 : 24名
- ・要支援 : 2名

・居宅介護計 : 26名

のべ利用回数 (平成29年4月～30年3月)

(単位:名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険	18	19	18	18	18	18	18	17	17	18	20	19	218 (227)

※ () は前年 (平成28年4月～29年3月) 実績

3. 障がい者スポーツ用品製作及び販売

3-1

事業名 障がい者スポーツ用品の試作・製作

概要 アス・ライフにおいて、必要とする利用者さんに適したボッチャ用具、関連用具のメンテや製作を行った。

4. 障がい者 (児) および高齢者の居宅訪問介護サービス事業

4-1

事業名 居宅介護事業 (障がい者自立支援) (アス・ヘルパーステーション)

概要 障害者支援

全身性障害者の移動支援 (地域生活支援事業) 及び、視覚障害者の同行援護事業を行った。移動支援は地域生活事業の一つとして障害者に提供される福祉サービスであり、事業所は利用者が居住する各市町村と事業委託契約を結んでサービス提供を行う。

視覚障害者の同行援護は法改正に合わせ、随時、従業者養成研修を受講し、利用者のニーズに応えられるよう体制を整えている。

どちらも、外出時に介助が必要な障害者にとって極めて有意義な制度であり、アスライフが特に力を入れている事業の一つである。

移動の困難さゆえに外出を控えがちになり、活動も制限されてしまう障害者にとって、社会生活を送る上で欠かすことのできない外出や余暇活動などの社会参加が行え、障害のある人が地域で自立した生活を送ることができるようにすることが目的です。

利用者数 登録利用者数 (平成30年3月現在)

・居宅介護 11名
 ・重度訪問介護 2名
 合計 13名

・訪問介護 のべ利用回数（平成29年4月～30年3月）（名）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
104	119	105	120	118	104	43	98	116	114	105	118	1,264 (1,362)

・重度訪問介護

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
9	8	10	11	8	7	8	12	10	9	12	11	115 (90)

※（ ）は前年（平成28年4月～29年3月）実績

4-2

事業名 訪問介護事業（介護保険）（アス・ヘルパーステーション）

概要 高齢者が可能な限り、在宅での自立した日常生活を送ることが出来るよう、手伝ます。介護もしくは支援になられた利用者に介護保険訪問介護・介護予防訪問介護サービスの提供をおこないました。

自費での通院介助・買い物支援の問い合わせが多くなりましたので、介護保険では出来ない支援は、自費で希望に沿ったサービスをしていきます。

アス・ヘルパーステーションにも男性職員が一名入社、障害の移動支援、介護保険の訪問等、頑張っています。

利用者数 登録利用者数（平成30年3月現在）

- ・訪問介護： 18名
- ・介護予防： 20名
- ・経過の予防介護： 0名
- 合計 38名



述べ利用回数（平成29年4月～30年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険	215	245	240	249	232	211	225	224	224	218	209	218	2,710 (3,518)
介護予防	182	177	180	161	186	175	170	148	145	143	136	150	1,953 (1,785)
合計	397	422	420	410	418	386	395	372	369	361	345	368	4,663 (5,303)

※（ ）は前年（平成28年4月～29年3月）実績

年間行事

1) ヘルパー会議

- H29年 5月23日 ヘルパー会議・研修（発達障害について・熱中症について）
7月31日 ヘルパー会議・研修（感染と予防対策について）
9月27日 ヘルパー会議・研修（職業倫理・接遇について）
11月27日 ヘルパー会議・研修（認知症について）
H20年 1月29日 ヘルパー会議・研修（アンガーマネジメントについて・インフルエンザとノロウイルスについて）
3月27日 ヘルパー会議・研修（困難事例発表：本当に支援が必要な時）

2) 研修受講内容

- H29年 11月25日 「アンガーマネジメントについて」
H29年 12月13日 「介護報酬と障害者福祉サービス報酬について」
H30年 3月3日 「地域における認知症対策」

5. 障がい者ならびに障がい者についての啓発に関する事業

5-1

事業名 講師派遣事業

概要 障がい者に対する社会の正しい認識を高めるため、各種団体・小中学校・施設などの講演への講師派遣を行った。

- ・下関リハビリ専門学校
- ・Y I C 宇部
- ・防府市人権推進協議会
- ・山口市立大内小学校
- ・山口市立名田島小学校
- ・大島町立森野小学校
- ・山口市立二島小学校
- ・小野田文化会館
- ・コメヂカル学院
- ・田布施町立麻郷小学校
- ・光市立岩田小学校
- ・上関交流文化センター 他

6. 障害者総合福祉法に基づく移動支援事業

6-1

事業名 移動支援事業（地域生活支援事業）及び同行援護事業（アス・ヘルパーステーション）

概要 全身性障がい者の移動支援（地域生活支援事業）及び視覚障がい者の同行援護事業を行った。

移動支援は、地域生活支援事業の一つとして障がい者に提供される福祉サービスであり、事業所は利用者が居住する各市町と事業委託契約を結んでサービス提供を行う。視覚障がい者の同行援護は法改正により新たに始まった制度である。外出時の介助が必要な障がい者にとって、きわめて有意義な制度であり、アス・ライフがとくに力を入れている事業の一つである。サービス提供と従業者養成研修を合わせて実施してきたことで、行政担当者や利用者の間での認識が高まってきたものと自負している。

利用者数 登録利用者数 （平成30年3月現在）

- ・全身性： 12名
- ・視覚障害： 23名
- ・知的発達： 8名
- 合計： 43名



述べ利用回数 （平成29年4月～30年3月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
全身性	138	156	139	149	153	138	72	141	150	148	134	151	1,669 (1,477)
視覚	75	88	73	84	86	82	82	78	86	79	73	82	968 (1,011)
知的	21	24	22	19	21	18	21	19	23	19	18	24	249 (256)
合計	234	268	234	252	260	238	175	238	259	246	225	257	2,886 (2,744)

※（ ）は前年（平成28年4月～29年3月）実績

Ⅲ. その他の活動（社会貢献）

(1) 「介護等の体験」実習生の受け入れ

教育職員免許法の特例にもとづく山口県社会福祉協議会の依頼により、「介護等の体験」実習生など年間を通して受け入れた。

今期は、合計28名（山口大学・山口総合支援学校・野田中学校）の実習生を受け入れ、H29.6/12～10/20の間に、アス・ライフにて7名、H29.6/12～11/10の間に大市デイサービスセンターにて21名、それぞれ月曜から金曜まで各々5日間の実習をおこなった。



(2) ボランティアの参加

今期は、囲碁、将棋、クリスマス、ライブなど、39名及び4団体の方がボランティアとして参加し、レクリエーションやボッチャ等のスポーツ活動の支援をしていただきました。

(大市デイサービスセンター 5名 / フォア・ア 30名 / アス・ライフ 4名・4団体)

VI. 法人の運営に関する事項

(1) 平成28年度理事会・評議委員会の開催

○理事会

平成29年 4月24日	第1回理事会
平成29年 5月24日	第2回理事会
平成29年 6月15日	第3回理事会
平成29年 8月24日	第4回理事会
平成29年10月19日	第5回理事会
平成29年12月22日	第6回理事会
平成30年 2月27日	第7回理事会
平成30年 3月12日	第8回理事会

○評議員会

平成29年 6月15日	第1回評議員会
平成29年 8月29日	第2回評議員会
平成30年 3月28日	第3回評議員会

特記事項

平成28年度事業報告について。平成28年度決算報告について。給与規定の改定について。理事及び監事の推薦について。理事・監事・評議員の報酬等支給基準について。放課後等デイサービス新規事業について。萩山口信用金庫借入について。みらいフォア・アスの改装業者選定について。後任理事の推薦承認について。平成29年度補正予算について。平成30年度事業計画について。平成30年度予算について。

(以上)